

# 黒川小 だより

白川町立黒川小学校  
校長 武市 進  
児童数 62名  
白川町黒川 2808-1  
Tel 77-1101  
2017年5月1日発行  
校報 No. 2

## 元気の源は遊ぶこと

平成29年度がスタートして1ヶ月が経とうとしています。ここまで子どもたちは、新しい担任の先生にもなれ、とっても元気に一日一日を過ごしています。4月は欠席者も大変少なく、全員登校の日が連続7日間続いています。小学校生活をスタートさせた1年生も4月は一人の欠席者もなく、授業中は落ち着いて勉強に励み、休み時間は元気に外で遊んでいます。黒川小学校の運動場は、毎日、身体を動かして元気に遊ぶ子どもたちの姿で溢れています。子どもたちにとって外で身体を動かして遊ぶことは、すべての活動の基本です。昨年度、体力優良校として表彰されたことも、8の字跳びで優秀な成績を収めたことも、その根底には、子どもたちが、日々元気に外で遊んだことがあります。今年度も外で元気に遊ぶことを年間を通して大切にしながら、「心豊かに 自ら学ぶ たくましい 黒川の子」を目指して参ります。



## 学校は自らを鍛える場

黒川小だよりの1号に「学校は鍛えの場」と書きました。学校は、誰が誰を鍛える場なのでしょう。黒川小だよりの1号の文面からは、教師が子どもたちを鍛える場のように思われるかもしれませんが、確かに教師が子どもを鍛える側面もあります。しかし、「鍛える」について本来大切にしたいことは、子ども自身が自分で自分を鍛えることです。そして、子どもたちが自分で自分を鍛えたい環境をつくるのが、教師の仕事です。

したがって、前号にも書いたように子どもがつまずかないようにお膳立てすることは、教師が鍛えの場を整えたことにはなりません。子どもたちに乗り越える必要のある壁を示すことが、教師の仕事だと考えます。壁とは、子ども一人一人が自分の願いや目標、解決すべき課題をしっかりとつことによってできるものだと考えています。

集団で活動するときには、子ども同士の互いの合意が必要です。それをつくるために学校では、子どもたちによる話し合い活動を大切にしています。自分たちの総意で決めたときには、互いの協力も生まれてきます。

教師から与えられた目標では、苦しくなったときに「先生に言われたから」といった気持ちになり、心のどこかに逃げの気持ちが生じてきます。そうすると、自分を鍛えることより、楽をすることを求めるようになります。

学校では以上のように「鍛える」を捉え、子どもが自分で自分を鍛える場を数多くつくりだし自ら鍛える姿を目指しています。